

今回は、RPAについてお伝えします。RPAはDXを推し進める上で欠かせない重要なデジタル技術のことを指します。

RPA(Robotic Process Automation)について

RPAとは? (仕組み、AIとの違い)

RPAとは、事務系の定型作業を自動化・代行するツールのことです。データの入力や転記、ファイルの複製といった単純作業の定型業務を自動化するものです。その仕組みは、最初にパソコン上で、ソフトウェアロボットに自動化させたい作業をRPAに記録します。フローチャート化された作業プロセスを、業務内容に応じてドラッグ&ドロップといった簡単な操作で編集し、ロボットを作成します。ロボットを実行するタイミングをスケジュール指定すれば、複数のアプリケーションやツールを操作して定型業務を実行します。AIとの違いは、RPAはルールに沿って落とし込まれた業務をそのまま自動化します。AIはコンピューター上に蓄積された膨大な量のデータを参考にして自分で判断して実行する点がRPAとの違いです。

RPAを活用する3つのメリット

- 1.業務の効率化による生産性向上・コスト削減
DX推進の際に導入することで生産性をアップさせ、ビジネスや開発にかかるコストを減らしてくれます。
- 2.ヒューマンエラーの軽減
ロボットの記憶媒体やプログラミングの力を借りてDXを実現するデジタル技術なので人為的なミスを減らせます。
- 3.24時間365日休まず稼働可能
連続稼働が可能のため、作業の担い手がいないというマイナス要素を排除しやすくなります。

RPAが得意な業務

・単純な作業や定型の作業

作業手順が単純で、判断を伴わない作業は最も得意分野です。こうした作業を任せれば、人件費を削減できるうえに人為的ミスも防ぐことができます。また、一定のルールが決まっている作業も得意でルール化しておけばそのとおりに作業します。

・定期的発生作業

手順やルールが決まっていれば、定期的に発生する作業も自動化できます。ツールによっては、日次・週次・月次などの任意のタイミングで作業できる「スケジュール機能」が利用可能です。早朝や夜間、休日などの時間外作業が発生する場合は、RPAによる自動化で大幅な経費削減もできます。

・反復となる作業

データ入力や変換などの反復作業も自動化の効果が高い分野です。VBAマクロのように、データ処理の手順を設定すればさまざまな作業を自動化できます。

・長時間作業

大量のメールやデータを処理するような、長時間を要する作業も自動化できます。リソースを必要とする繁閑差がある場合は、自動化で社内リソースの安定化も見込めます。

RPAが不得意な業務

複雑な処理や臨機応変な判断が求められる業務や、発生頻度が不定期、もしくは短時間の作業は向いていません。手順が複雑・決まっていない作業、思考や判断が必要になる作業等が不得意です。

RPA導入の注意事項

- 1.企業に合ったRPAツールを選定する
必要な機能が付与されていない、過剰な機能を搭載したRPAは使い勝手が悪く、DXもスムーズに推進しづらくなります。
- 2.ビジネス全体を意識し、スモールスタートで実施する
身近なところから少しずつ着手するようにします。大きすぎる処理を任せると、トラブルが発生した際の軌道修正が大変です。
- 3.ツールの扱える人材を育成する
万が一の場合に備え、RPAに処理させている業務フローを明確に理解し、それらのツールを扱いこなせる人材を必ず社内におくようにしましょう。

RPAはDX推進を支えるデジタル技術の一つです。さまざまな業務フローが自動化できるツールであり、使い方によっては業務効率改善に大きく貢献してくれるため、生産性アップに欠かせないツールとも言えます。